

中海エコ活動レポート

今年も中海・宍道湖一斉清掃を行いました！



メイン会場の境港市(中海干拓地西側護岸)の清掃風景

鳥取・島根両県知事も一緒に、ゴミ拾いを行いました。



6月14日(日)に、鳥取県境港市をメイン会場に、地域の皆様方とともに鳥取・島根両県、沿岸の5市二町が連携して、中海と宍道湖の湖岸を清掃する第4回『ラムサール条約湿地 中海・宍道湖一斉清掃』を行いました。

当日は、両県合わせて7,433人と多くの方々に参加していただき、約28トンのゴミを集めました。

- NPO法人自然再生センター
～中海浚渫窪地の埋め戻し研究について～
- NPO法人中海再生プロジェクト
～ 中海ポスターコンクール ～
- 米子水鳥公園での湿地の管理
～米子水鳥公園～

- NPO法人自然再生センター
飯梨川流域部会
～ 飯梨川河川敷の循環再生
—初めての全面収穫— ～
- イベント情報

中海浚渫窪地の埋め戻し研究について NPO法人自然再生センター



中海、安来細井沖の埋め戻し作業船と観測用筏上の見学者

中海の底に大きな穴（窪地）がたくさんあるのはご存知でしょうか？

昭和40年代から50年代にかけて、干拓地や宅地をつくるために、中海の底から大量の土砂が採取され、平坦だった底に窪地がたくさん出来ました（その量は約3千万 m^3 で松江の山陰合同銀行本店の170個、米子の粟島の65個分に相当します）。この急激に深くなる窪地の中は水が交換されにくく、長期間にわたって貧酸素状態となり、周辺水域へ大きな影響を与えています。日本では他に、東京湾、三河湾、大阪湾の沿岸や霞ヶ浦などにも窪地が存在し、アサリをはじめ、魚介類の大量死をもたらすなど、さまざまな影響が報告されています。

窪地を本来の地形に戻すためには、採取した分、すなわち約3千万 m^3 という莫大な量の砂が必要になりますが、砂は高価で入手は困難です。そこで、砂の代わりになる材料を研究することとし、今回は石炭灰造粒物（石炭灰に少量のセメントと水を加えて固めた材料、）を覆砂材として利用して実験を行いました。石炭灰造粒物は比重が軽いので、ヘドロの上にも覆砂することができ、またリンをトラップする効果があることが知られていて、これまでも覆砂材として利用されているものです。

この研究は、平成20年度に環境省の環境技術開発等推進費による「浚渫窪地埋め戻し資材としての産業副産物の活用—住民合意を目指した安全性評価に関する研究—」として採択されたもので、来年度までの3ヶ年計画で進めています。今年度は5月に、安来の細井沖の窪地に750 m^3 の石炭灰造粒物を、40m×40mの範囲の湖底に、厚さ40cmになるようにヘドロ層の上に覆砂して、実証実験をスタートさせました。

中海全体の窪地の大きさに比べると、本当にごく小さな実験ですが、“産廃”として捨てられている産業副産物は膨大な量です。

“生かして資源”となりうる産業副産物も、色々あるはずですが、それらについてどのような試験を実施すれば安全、安心だといえるのか、住民合意が得られるのか、などが研究の課題で、これまでに石炭灰造粒物の品質試験や、貝類を指標とした安全性評価実験も行ってきました。また、研究の取り組みや成果については、見学会やシンポジウムに多くの方々に参加してもらい、現地での実験も見させていただくという方式で、これまで行ってきました。

かつての人間活動によって作られた窪地を本来の地形に埋め戻し、失われた自然を再生しようとする私たちの活動は、まだ始まったばかりで、いくつもの課題をかかえています。これからも「豊かで遊べるきれいな中海」を合言葉に活動を続けて行くつもりです。



中海、安来細井沖の埋め戻し実証実験

■事務局

NPO法人自然再生センター

TEL (0852)21-4882

FAX (0852)61-0900

■ホームページ

[NPO法人自然再生センター]

<http://www.sizen-saisei.org/>

中海ポスターコンクール

～NPO法人中海再生プロジェクト～

【子ども達に中海を知ってもらおう！】

今年で3回目の「中海ポスターコンクール」。子ども達に中海への関心を深めてもらい「未来の中海の形成者」としての意識を育ててほしいとの思いで企画されました。3回目の今回は、15歳以下の子どもの達を対象に実施、これまでで最多の183の作品が寄せられました。関係者一同、嬉しく思っています。

【子ども達からのメッセージ】

今回のテーマは「20年後の中海」。子ども達が描く中海の未来像は、大人を驚かせるようなユニークなものばかりです。私達大人が、中海の目指すべき方向性を考える上で大きなヒントになるのではないのでしょうか。当NPO法人では「中海未来マップ制作実行委員会」を発足させ市民の皆様



鳥取県西部総合事務所長賞

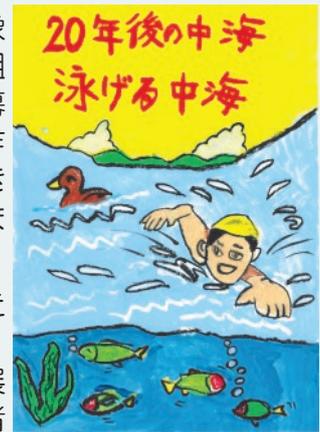
と共に中海の未来像を描くことに取り組んでいます。ご応募いただいた全ての作品はこの活動の大きな原動力になります。

8月23日に行われた「中海環境フェア」では全ての作品を展示し、多数の来場者にご覧頂きました。

作品展示は、中海の未来について親子同士、市民同士語りあう場となりました。ご協力いただいた多くの皆様に感謝いたします。来年もますます充実した企画を考えておりますので、よろしくお願いいたします。

今後も私達は、市民の皆様と共に中海再生に努力し、誇りある地域づくりを目指していきたいと思えます。

■NPO法人中海再生プロジェクト
TEL (0859)29-2854



最優秀賞

米子水鳥公園での湿地の管理

米子水鳥公園

いよいよ極北から多くの水鳥たちが米子水鳥公園へやってくる季節になりました。この時期、私たちは、毎朝出勤して公園のつばさ池を見るとき、ドキドキした気分になります。それは、まさにテストの答案用紙を返してもらおう子供のようにです。

答案用紙は「水鳥公園」そのもので、○と×を付けるのは、水鳥です。

水鳥公園では、ボランティアの皆さんと水鳥の餌を食べる浅瀬を作ったり、休憩場所を作るために草を刈ったり、様々な環境管理をしています。

「米子地区環境問題を考える企業懇話会」による鳥のための除草活動。572名が参加した。(9月25日)



ただこれにはセオリーはなく、どんなに頑張った作業も、正しかったか間違っていたかは秋にやってきた水鳥だけが教えてくれるのです。

予想どおりの場所に水鳥が降りてくれば、うれしいことこの上ありませんし、逆に降りてくれないければ、ひと冬の間、悩み続けることになります。



ボランティアによる除草活動風景

今年の作業は正解だったでしょうか、まちがいであったでしょうか？ 皆さん、ぜひ公園に確かめに来てください。

(米子水鳥公園 指導員 神谷 要)

■連絡先

(財)中海水鳥国際交流基金財団

米子水鳥公園

鳥取県米子市彦名新田665

TEL (0859)24-6139

FAX (0859)24-6140

Homepage :

<http://www.yonagomizudorikouen.or.jp/>

飯梨川河川敷の循環再生 —初めての全面収穫—

～NPO法人自然再生センター 飯梨川流域部会～

【河川敷牧草栽培の目的】

自然環境の保全には2つの道があります。一つは原始の自然をそのまま残す事。もう一つは人間が手を加えながら人と自然が共生して自然環境を保全する事です。

河川敷や堤防の保全再生は後者です。木・竹・雑草の高く茂った河川敷・堤防は治水に悪く、これら雑草木が川水を大量に消費するため水量保全・利水・川水浄化にも良くない事です。

とりわけ中海は汽水湖で、高塩分の閉鎖水域を湖底に持つため、流入河川の栄養負荷は少なくしなければ中海の水質悪化が助長されます。

以上を総合すると、飯梨川の河川敷・堤防の草木はいつも茂らぬよう刈取って川の系外に出されることが、治水・利水・環境保全の三点全てに良いのだということです。これを継続させる方法のひとつとして私たちは河川敷牧草栽培を選びました。

【取組み概要】

平成19年度より、国道9号線の南側2.15kmに渡り、飯梨川河川敷を地元ボランティアの方々の協力を得て、伐採、草刈を行い、親水広場や牧草地として整備してきました(図参照)。今年5月に、2年余りかけて整備した約7haの牧



草地で初めて全面収穫を行い、収穫した牧草は安来の40軒の畜産農家に配布販売しました。

今回の収穫量はわずかですが、今後事業が成功すれば30haまでの面積拡大が見込まれており、収穫量の増大も期待できます。

【連携した取組み】

今後の発展のため、畜産農家を主な会員とする「飯梨川牧草連絡会」が結成され、「土手守(もり)を楽しむ会」も動き始めました。

また、近隣住民の方々へのアンケートでも多くの人から励ましの意見をいただいております。この活動をさらに進めて行きたいと思っています。

■NPO法人自然再生センター飯梨川流域部会
TEL (0854)22-1233
FAX (0854)22-1232



刈り取り後の河川敷(H21年5月21日)

イベント・活動カレンダー

月	日	活動予定
12	6(日)	ゴビウス生きもの観察会「つくってみよう、魚の標本」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
	12(土)	米子水鳥公園 自然観察会「水鳥公園のエビを食べよう」 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	19(土)	第5回中海自然再生協議会(第2期) 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882

月	日	活動予定
1	1(金)	米子水鳥公園 自然観察会「初日の出!コハクチョウ観察会」 問合せ先 米子水鳥公園(0859)24-6139
	24(日)	ゴビウス生きもの観察会「両生類、爬虫類とふれあい体験」 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100

■平成22年2月以降のイベント、このレポート発行後に開催が決定したイベントは、ホームページ(中海エコ活動イベント情報)に掲載しています。ホームページアドレス <http://db.pref.tottori.jp/NEAL.nsf>

編集・発行者

鳥取県西部総合事務所
生活環境局環境・循環推進課
鳥取県米子市鞆町一丁目160
電話 (0859)31-9350
E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.jp
Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

鳥根県環境生活部環境政策課
鳥根県松江市殿町1番地
電話 (0852)22-5562
E-mail:kankyo@pref.shimane.lg.jp
Homepage: <http://www.pref.shimane.lg.jp/kankyo/>

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認してください。なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。